

白藍塾オリジナル

2011入試小論文分析&解答のヒント

2011年3月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・樋口裕一・大原理志・大場秀浩

●早稲田・スポーツ科学部

昨年度とは違って、今回は一つの課題文を読んで答える問題になっている。しかし、広い意味で、スポーツと社会の関係を問題にしている点では同じ傾向と言っていいだろう。

課題文は、「日本では、スポーツの文化としての重要性が認識されていない。このままでは、日本は文化的にも経済的にも世界から遅れてしまう。日本のスポーツ文化はどうあるべきかをしっかり考えることが、今、求められている。そのためにも、スポーツとは何かという定義を多くの日本人が共有する必要がある」とまとめられる。

この課題文を読んだ上で、「スポーツとは何か」についての自分の考えとその理由を書くように求められている。

課題文は、スポーツの定義が必要な事情を説明しているだけで、スポーツの定義そのものをくわしく論じているわけではない。最後の数行で、筆者を含む学者による様々な定義が紹介されているが、これらについて直接論じようとしても、抽象的すぎて歯が立たないだろう。かといって、課題文を無視して自分の考えを述べても、もちろん課題にきちんと答えたことにはならない。

もっとも書きやすいのは、課題文中の定義を参考にして、自分なりにわかりやすい定義を作ってしまうことだ。「スポーツとは身体による精神の解放」「スポーツとは自己または他者との競争を通じて自立心を養うための遊び」などのように。そして、それを第一部でずばり示した上で、第二部で、「確かに、他にも定義はある。しかし、この定義がもっとも適切だ」というように書く。そして、第三部で、なぜその定義が

適切なのかをしっかりと説明する。その際、「この定義を共有することで、日本にもスポーツ文化が定着する」というようにうまく論じるとよい。たとえば、「スポーツを身体による精神の解放と捉えることで、スポーツをただの気晴らしではなく、ストレスの多い現代社会を生きるために必須の文化的営為とみなせるようになる」などのように。

こうすることで、課題文ともかみ合って、説得力のある文章になるはずだ。

◎執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179)

<http://www.hakuranjuku.co.jp>